

3399 白夜の月：状況と心模様②

未知への挑戦、冒険ひとり旅。
張りつめられたタイトロープ上に行くようなもの。
緊張の後のリラックスできる時間、
このギャップの差が大きければ大きいほど充実感がわく。
だから、面白い旅ができたのかも知れない。

地球ひとり行脚から得たものは多い。
知らないことが一杯あるのが実感。
まさか、そんなはずはない、は通じない。
命にかかわる事が多い。
普通の常識は当てはまらないとの思い。
先入観や固定概念は、かえって邪魔になる。

一枚の作品が出来るには、時間も労力はじめ、
いろいろ表現できないこともある。
和紙は毎年、特別注文して備蓄。
材料である和紙自体、同じものができない。
和紙夢絵にする作業も時間も手間もかかる。
失敗も多く歩留まりも悪い。

採算を考えていたら出来ない夢挑戦。
モチーフとの相性もある。
湿度も関係する。その選択が難しい。
経験上、何よりも大切なのは、魅力あるモチーフと
良質の純楮寒漉き和紙がその後を決める。
一番の難題は、色彩表現。未完成がいくつもある。

和紙夢絵の材料のモチーフである「白夜の月」
たかが一枚、されど、上記の背景があって完成とした。

東山魁夷画伯が「風景との会話」に書かれている。

「絵になる場所を探すという気持ちを捨てて、
ただ無心に眺めていると、相手の自然の方から、
私を描いてくれと囁きかけているように感じる風景に出会う。

その何でもない、一情景が私の心を捉え、
私の足を止めさせ、
私のスケッチブックを開かせる。
この一見、単純な出会いは偶然なのだろうか、
それとも、機縁の糸につながっているのだろうか」と。

絵画は、デフルメが可能、
フィルムカメラには、その瞬間のチャンスしかない。
過去現在未来が凝縮され、撮影者の人間性もでる。
ひたすら、スマイルオンミーを願って。
難しいことだが、無^むや空^{くう}、素直な気持ちが大切。
結果、夢絵の材料、思わぬ素敵^{すてき}なモチーフが得られた。
久楽コレクション、地球紀行のモチーフが多い。
洋景だが、深層底辺には、和魂。
和紙夢絵にふさわしいモチーフの選択。それらのコラボレーション、
和紙芸術「夢絵」の原点である。

産経新聞の連載、始まったばかりである。
心も体も柔軟に、肩から力を抜かないと、何しろ長期戦。
プロセスは、苦しみであり楽しみ。
また鍛えられる機会を得た。なんともありがたい。

以上の記録が残っていたので紹介させていただいた。